



呼吸器外科医療録②

肺がんを早く見つける!



肺がんの治療は飛躍的に進歩し、早く見つければ手術で治る可能性が高くなっています。しかし、初診の4割の患者さんに既に転移があるという報告もあります。皆さんは肺がんだったら必ず症状があると思いませんか？

以前は喫煙の影響で気管支にできる肺がんが多く、咳や痰などの症状で発見されることもありました。現在は喫煙率が低下し、気管支より末梢の肺にできるがん（腺癌）が増えています。日本人の肺がんの約6割を占める腺癌は、早期に自覚症状が

ないのも特徴です。

「症状がないからがんではない」は大きな間違いです。自覚症状が出てからではなく、定期的な検診で早く見つけることが大切です。

日本の肺がん検診の受診率は、40～69歳で男性53%、女性46%です。これはアメリカの受診率80%や諸外国と比較しても低く、福島県は32%で、いわき市は19%と際立って低いです。

非喫煙者の肺がんも増えています。まずは検診を受けてみましょう！

けんこうQ&A 在宅医療②

在宅医療はどんな人が利用できるの？



在宅医療は、通院が難しくなった方のための医療です。病気や体力の低下などにより移動の負担が大きくなり、外来通院を続けることが難しくなった場合に検討されます。

具体的には、歩行困難で車椅子で利用されている方、がんの終末期で緩和ケアを希望される方、難病・神経疾患（パーキンソン病、ALSなど）を抱える方、慢性の呼吸器・心疾患、脳卒中の後遺症がある方などが対象者です。

また、病名だけで決まるものではなく、在宅酸素や経管栄養、カテーテ

ルといった医療機器の管理が必要な方や、加齢に伴う衰え（老衰）などで体力が低下し、通院そのものが心身の負担となって、適切な医療を継続することが難しくなった際、住み慣れた「生活の場」で医療を受ける仕組みが適用されます。

一人ひとりの病状や身体の状態に応じて、医師がその必要性を判断し、在宅での療養生活を支えていくことになります。

